

日中経済交流研究会新聞

プラスワン委員会「ミャンマー」訪問レポート

チャイナプラスワンとしてのミャンマーの現状はいかに？

日 程：2019年11月28日～12月4日

訪 問 先：ミャンマー（ヤンゴン）

参加人数：11名

ミャンマー人として、また同友会・日中の会員として、日本でミャンマーの発展のために尽力されている株式会社ミャンマーサポートの土井ミミレさんの案内で、プラスワン委員会が、現地企業や外国人技能実習生が学習している様子などを見学してきました。



プラスワン委員会

訪問先① 不動産ディベロッパー【AMPS社】

1994年創業。別荘・郊外住宅・コンドミニアム・工場の建設、インフラ（道路建設・政府関係施設）整備・ボランティア（社会貢献活動）、病院運営などを、幅広くグループで営む。

日本の企業とも取引があり、日本人向けのサービスアパートメントも建築実績があるとのこと。郊外の別荘は4,000万円、住宅は2,600万円ほどするが、売れているということでした。外国人は土地を買えないが、60年ほどの定期借地権で契約するということでした。同社Thura Aung 社長のコメント「ビジネスは国対国ではなく相手（個人）の人間性で決まる。だから中国人と日本人とで接し方は変えていない。しかし、日本人は慎重に考えて結論が遅い。一方、中国人は即断即決で話が早い。日本人は、約束を守るしきちんと仕事をする。いい人も多いので即断即決できればなお良い」。

訪問先② 鋳物工場【MET co-op Ltd】

1978年創業のアルミ鋳造工場。砂型による昔ながらの鋳物工場。約10名の工員さんが砂型作成などに汗を流されていました。工場の床はすべて土であり、小さな蛍光灯がまばらに配置されるだけで窓もなく非常に暗く、工員さんはサンダル履きか裸足でした。

訪問先③ 鉄工所

【シュサウ メカニカルエンジニアグループ Co., Ltd.】

10ミリ前後の鉄板やアングル材を切断・穴あけをして、5m×12mくらいの支柱のような構造物を製造していました。同じ業界の委員によると「昔日本も同じような工法で仕事をしていましたが今は機械化されている作業が多い」とのこと。日給は600円ほど、月給にすると15,000円程度でしょうか。ここでも作業員は裸足。重量物を扱う仕事でもサンダル履き。日本で研修してきたという若者も上半身裸で、足は裸足で作業をしていました。

訪問先④ 実習生送り出し機関

【Shwe Depam International Service Co., Ltd.】

2015年から活動を開始。今までに161人を日本へ送り出

しているという。製造工場（パン、縫製関係が多い）。東北、北陸での就職が多い。現在170名くらいが在籍して勉強をしている。大学や大学院を卒業または中退してこの機関の門を叩いている人もいるとのこと。人気の渡航先は1位日本、2位シンガポール、3位韓国。日本は安心・安全で大変人気がある国で、親が資金を出してまで送り出したいということでした。

金剛運輸のトラックに遭遇

工業団地の外で、なんと日中の仲間の会社「金剛運輸」のトラックを発見！

ここミャンマーでは日本の中古車が大活躍している。古くても性能が良いため、小型乗用車から大型トラックやバスにいたるまで街を走る車のほとんどが日本の中古車だということです。あえて車体に日本語を残すことで日本車であることの証明になっているようです。



金剛運輸のトラックと

まとめ

ミャンマーの工員さんは、まじめでテキパキと作業されているように感じました。機械化し、もっと管理をしっかりすれば、効率の良い工場になると思いました。

インフラなどはまだまだこれからという感じでしたが、ミャンマーの人々は信仰心が厚くまじめで、そして何よりたくさん若い人たちが日本に来たいと思っています。今後も日本と良い関係を持ちながら、人々が豊かになり、幸せに暮らせる国づくりが進むことを願って旅を終えました。

当研究会でこうした「プラスワン」の取り組みを継続していければと思います。

取材・文章：日中経済交流研究会 広報委員